生物多様性社会

生物多様性保全

101-1,101-2,101-4,304-2

基本的な考え方・方針

ユニ・チャームでは、事業活動によって生物多様性を毀損させた場合、バリューチェーン全体に甚大な被害を及ぼすと考え、持続可能性に配慮した資源の利用を推進しています。特に原材料に用いているパルプや紙、パーム油などは、「森林由来の原材料調達ガイドライン」を定め、適切な管理がなされた森林からのみ資材を調達し、違法伐採材の排除や地域住民ならびに関係する労働者の権利保護などに努めることで「生物多様性の主流化」に貢献しています。

2020年5月に公表した「環境目標2030」では、「森林破壊に加担しない(調達対応)」をテーマに、生物多様性の保全に貢献すべく、「2050ビジョン」として「購入する木材について自然森林破壊"0(ゼロ)"社会の実現」を掲げています。このビジョンに向けて、パルプやパーム油のトレーサビリティの確保と原産地確認の完了および認証材への100%切り替え、使用済み紙パンツ(紙おむつ)のリサイクル推進を2030年目標に設定しました。

また、当社は、「経団連生物多様性宣言・行動指針(改訂版)」に賛同して「経団連生物多様性宣言イニシアチブ」に参画しており、2022年12月に生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)において採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」や、2023年3月に日本で「生物多様性国家戦略2023-2030」が閣議決定されたことを受け、2025年2月に「ユニ・チャームグループ『生物多様性対応宣言』」を策定・公表しました。

Keidanren Initiative for Biodiversity

▶ **ユニ・チャームグループ「生物多様性対応宣言」**

私たちは、企業活動のあらゆる段階において、以下の原則に基づき、生物多様性や自然環境の保全に努めます。

生物多様性への依存と影響の把握：
企業活動と生物多様性との関係性を深く理解し、原材料調達から製造、使用、廃棄にいたるバリューチェーン全体の生物多様性への依存や影響について継続的に把握・評価します。

企業活動における影響の最小化：
商品のライフサイクル全体を通じて、森林伐採、水資源の使用、気候変動への影響など、生物多様性への影響を最小限に抑えるよう努めます。

持続可能な資源の利用：
サプライチェーン全体で、持続可能な方法で調達された原材料を使用します。特に、紙パルプ、パーム油、木材由来繊維など、生物多様性への影響が大きいとされる原材料については、認証制度の活用やトレーサビリティの向上などに取り組みます。

生物多様性の保全活動の推進：
企業活動を行う地域社会と連携し、森林保全、水資源保護、生態系回復などの活動に積極的に取り組みます。

地域生態系への共存：
企業活動を行う地域の生態系に配慮し、生物多様性の損失を招くことなく、地域社会と自然環境との共存を目指します。

共に働く仲間たちへの啓発：
ユニ・チャームグループで共に働く仲間たちと生物多様性や自然環境の保全を推し進めるために、本宣言はもちろん、よりよい行動につながるような教育や啓発活動を実施します。

ステークホルダーとの連携：
政府機関、国際機関、NGO・NPO、地域社会、お取引先様など、様々なステークホルダーと連携し、生物多様性や自然環境の保全に向けた協働を推進します。

2025年2月10日
ユニ・チャーム株式会社
代表取締役 社長執行役員 高原豪久

▶ 森林由来の原材料調達ガイドライン

序文

ユニ・チャームは、近年の地球温暖化・生物多様性の減少などの環境問題の重大性を認識して持続可能な原材料調達を目指しています。当社の事業活動が自然資本に依存している状況を理解し森林破壊ゼロを支持しています。また、昨今のパーム油のプランテーションで発生している環境問題にも対応を進めます。

方針

ユニ・チャームは、近年の気候変動リスクが高まる中、持続可能な社会の構築に向けて環境負荷低減・環境保全に努めるとともに、生物多様性に配慮したサプライチェーン管理の推進に努めます。

そのために環境基本方針や調達基本方針を生物多様性に対してより具体化した森林由来の原材料調達ガイドラインの運用によって資源の保全に努めます。

目標

2030年までに、ユニ・チャームの吸収物品に使用されるパルプ、ペットフードにごく少量使用されるパーム油について、持続可能性に配慮した原材料または再生した原材料の購入率100%、トレーサビリティ100%完了を目指します。

古紙・再生パルプ以外のバージンパルプを使用する場合は、サプライヤーとの協働により森林破壊ゼロを十分に確認します。具体的には、パルプ・紙についてPEFC（Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes）等の第三者認証がとれた原材料または、保護価値の高い森林（HCVF／High Conservation Value Forests）や炭素貯留量の多い森林（HCSF／High Carbon Stock Forests）以外の原産地証明の確認を行います。パーム油について、RSPO認証油への切り替えを行います。

また、業界団体活動に積極的に参画し、持続性に配慮された森林資源の活用に努めます。

行動指針

（1）古紙・再生パルプ・ロス紙を優先して使用します。
（2）PEFC等の第三者が認証した森林資源を優先して使用します。
（3）第三者認証がとれない森林資源の場合は、以下が確認されたサプライチェーンの構築を進めます。

- 原産地証明書やタグによりHCVFやHCSFからの伐採ではない。
- 森林破壊ゼロが担保されている。
- 産出地の労働者や先住民の人権、強制労働や児童労働禁止に配慮されている。
- 産出地の法律・規則を守っている。

P.19 ユニ・チャームグループ環境基本方針
P.98 調達基本方針

リスクと機会

リスク

パルプの原料は、計画的に植林・伐採した北米産スラッシュパイン（松）ですが、地球温暖化による渇水や過度の乾燥などが原因の森林火災などが発生して松の栽培が困難となった場合、原材料の需給バランスが崩れ、安定調達が困難になり、購買価格が上昇するなどのリスクがあります。パーム油は、持続可能性に配慮したRSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil／持続可能なパーム油のための円卓会議）などの認証油の需要が高まり、調達コストが上昇するリスクがありますが、一方で持続可能性に配慮しなかった場合は、卸店・小売業などの流通各社からの取り扱い停止や消費者の買い控えなどが発生するリスクがあります。

また、生物多様性を害する問題を発生させた場合は、原状回復のために多額の支出が発生するリスクがあります。

機会

持続可能性に配慮した認証材を積極的に活用することによって、原材料の安定調達やコスト抑制が期待できます。さらに、卸店・小売業との協働による生物多様性に配慮した商品の提供により、消費者理解が得られ、売上拡大が期待できます。また、成長が早く東南アジアでも計画的に植林・伐採が可能な広葉樹を原材料としたパルプを利活用することにより、当社が事業を展開しているアジアでの原材料の安定確保や輸送コストの低減などが期待できます。このような取り組みは「地産地消」による地域経済の活性化などにもつながると考えています。

マネジメント体制

当社は年4回、社長執行役員を委員長としたESG委員会で生物多様性に関する重点課題の計画と進捗を共有・報告しています。具体的な計画については、TCFDやTNFDのフレームワークに準拠して整理を行い、「環境目標2030」や「Kyo-sei Life Vision 2030」に沿って報告を行っています。

P.8 サステナビリティ推進体制

ステークホルダーとの協働

社外の専門家や有識者との意見交換を通じて、生物多様性に関する課題認識やマテリアリティの特定、見直しを行い、活動の指標を設定しています。森林由来原材料については、ESG本部と購買部門が協働で持続可能性が担保された第三者認証材への切り替えを進めています。

指標と目標

▶ 環境目標2030「森林破壊に加担しない（調達対応）」

実施項目		2022年度実績	2023年度実績	2024年度目標	2024年度実績	2025年度目標	2030年目標	2050ビジョン
パルプ、パーム油の原産地（国・地域）トレーサビリティ確認	森林由来原材料*1	97.1%	99.2%	100%	99.3%	100%	完了	購入する木材について自然森林破壊“0”（ゼロ）社会の実現
	パーム油（日本）	62.8%	58.5%	95%	99.4%	100%		
認証パルプ（PEFC・CoC認証）の拡大	認証工場数比率*2	48.4%	58.6%	72%	60.0%	75%	100%	
	認証材調達比率*3	72.3%	65.3%	73%	70.3%	75%		
認証パーム油（RSPO）の拡大*4（日本）	—	62.8%	58.5%	95%	99.4%	100%	100%	
紙パンツ（紙おむつ）リサイクル推進	—	2*5	2	2	2	2	10以上の自治体で展開	

*1 第三者認証材に加え、原産地（国・地域）トレーサビリティ確認ができた森林由来原材料（パルプ）の比率。 *2 当社工場におけるPEFC・CoC認証取得工場数の比率。 *3 対象となる工場数および海外の集計範囲を見直したため、2023年度の数値を遡及して再計算しました。
*4 認証パーム油は、マスバランス方式によるRSPO認証油。集計の対象資材を追加したため、2023年度以前の数値を再計算しました。
*5 2022年度より鹿児島県志布志市と大崎町の2つの自治体でリサイクル設備を運用（使用済み紙パンツの回収に関する実証実験については、2020年度に東京都東大和市、2021年度に東京都町田市で実施）。

▶ Kyo-sei Life Vision 2030「地球の健康を守る・支える」

指標	2022年度実績	2023年度実績	2024年度実績	2030年目標
今までにないユニ・チャームらしい考え方で「3R+2R」を実践する商品・サービスの展開件数。	2件	2件	5件	10件以上
紙パンツ（紙おむつ）リサイクル設備の導入件数。	1件	1件	1件	10件以上

取り組み・実績

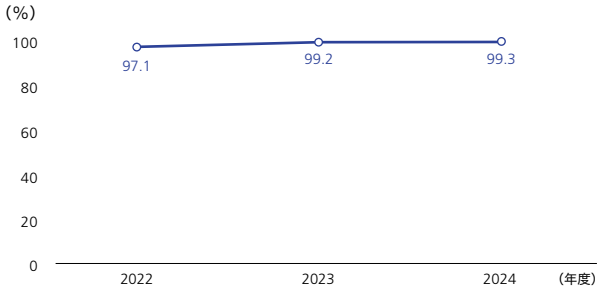
森林由来原材料（パルプ）

持続可能な森林由来原材料の調達

当社は、持続可能な森林由来原材料の調達を推進しています。商品の吸収体で使用されているパルプの多くは、北米および南米原産のFM（Forest Management／森林管理）認証林の針葉樹から作られています。また、生物多様性に著しい影響を与えるHCVFやHCSFから伐採された原材料は使用しないようにサプライヤーに要請しており、2016年度からは対象範囲を海外のローカルサプライヤーにも広げて持続可能な原材料の調達を進めています。

2024年度の森林由来原材料（パルプ）の原産地トレーサビリティ比率は、グループ全体で99.3%でした。

▶ **森林由来原材料の原産地トレーサビリティ比率**



P.140 環境データ>森林由来原材料

認証パルプ（PEFC・CoC認証）の拡大

グループ全体で、PEFCのCoC認証の取得を推進しており、2024年度は中国の上海工場とベトナムのバクニン工場が新たに認証を取得しました。2024年12月末時点で、対象30工場中18工場が認証を取得し、PEFC・CoC認証工場数比率は60.0%、パルプのPEFC認証材*1調達比率は70.3%でした。

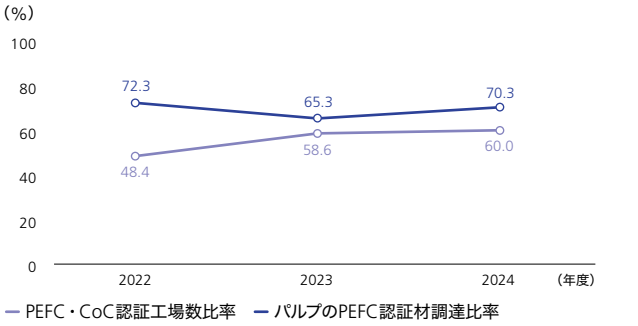
PEFC・CoC認証を取得した工場で生産した商品のうち、日本の『ムーニー 低刺激であんしん』『ムーニーマン 低刺激であんしん』『ムーニー』『ムーニーマン*2』『ムーニーオヤスミマン*2』、韓国の『MamyPoko』、マレーシアの『MamyPoko Pants』と『PETPET Pants』、台湾-大中華圏の『MamyPoko 極上のCare Pants』などのベビー用紙おむつ、日本の『ソフィ はだおもい』などの生理用品の商品パッケージにPEFC認証ラベルを掲載しています。また、ソーシャルメディアやWebサイトを通じて、適切に管理された森林から作られたパルプ・紙を使用した商品であることを紹介し、消費者に向けて当社の取り組みの周知や浸透を図っています。

PEFC
PEFC/31-31-1417-1
ユニ・チャーム株式会社はPEFCの調達を通じて世界の持続可能な森林管理の促進を支援しています

*1「PEFC 100% Certified」と付されたパルプ。
*2 スーパービッグサイズを除く。

PEFC認証ラベルをパッケージに記載している商品の一例
（左から日本、台湾–大中華圏、マレーシア）

▶ **PEFC・CoC認証工場数比率、パルプのPEFC認証材調達比率**



P.140 環境データ>PEFC・CoC認証

▶ **PEFC・CoC認証取得一覧**

認証取得年度	工場名
2020	カラワン第1・第2工場、イーストジャワ工場（インドネシア）
	ウェルグロー工場（タイ）
	福島工場、静岡工場、四国工場中央製造所、九州工場（日本）
2021	亀尾工場（韓国）
	DSGマレーシア工場（マレーシア）
	Hartzプレザントプレイン工場（アメリカ）
	竹南工場（台湾–大中華圏）
2022	三重工場（日本）
2023	DSGタイ第1工場・第2工場（タイ）
	ジャグアリウナ工場（ブラジル）
2024	上海工場（中国）
	バクニン工場（ベトナム）

「森林認証共同推進」に関する覚書を締結

当社と一般社団法人緑の循環認証会議（以下、SGEC／PEFCジャパン）は、2022年11月に持続可能な森林の利用と保護について以下の6分野の共同推進に関する覚書を締結しました。

また、覚書の（3）森林資源の保護につながる活動として、2021年度から毎年、SGEC／PEFCジャパンが実施する植樹活動に参加しています。

▶「森林認証共同推進」に関する覚書

（1）PEFCラベルの使用や露出を増やす
（2）サプライチェーンへ持続可能な森林の利用の働きかけを行う
（3）森林資源の保護につながる活動を実施する
（4）PEFC認証材を使用することで得られるメリットについて広く啓発する
（5）販売製品以外の紙についても、PEFC認証紙の使用を最大限に考慮する
（6）PEFC認証製品について、ホームページやニュースレター・SNS等の媒体、およびPEFC加盟国が参加するイントラネット等を活用して紹介する

P.49 【日本】「2024年度『We Love Forestの森』植樹祭」に参加

紙パッケージにおける認証材の拡大

日本で発売しているマスクや生理用タンポン、化粧用コットン、キャットフードなどの紙パッケージおよび段ボールについて、2019年度から認証材への切り替えを進めています。

認証材を使用した紙パッケージの一例

事務用紙の認証材比率

オフィスで使用する事務用紙についても環境配慮を心がけており、2024年度は99.9%（100%古紙を配合した事務用紙が37.6%、認証材を使用した事務用紙が62.3%）が環境配慮品となりました。さらに、本社事務所においては、事務用紙をPEFC認証紙に順次切り替えています。

P.140 環境データ>事務用紙の認証材比率

広葉樹パルプの活用

広葉樹は成長が早く東南アジアでも計画的に収穫できるため、当社では広葉樹パルプを原材料に活用した商品開発を推進しています。広葉樹パルプの活用は、アジアで広く事業展開している当社にとって、原材料調達先の多様化や輸送コストの低減だけでなく、「地産地消」の促進による地域経済の発展につながります。

従来、当社が主に用いている針葉樹パルプと比較して、広葉樹パルプの繊維は細く柔らかいため、成型が難しいという課題がありました。これに対し当社では、3Dファイバー加工により繊維同士を接合し、繊維をちぎれにくくする技術を開発しました。この加工によりハードな動きや汗などを吸っても型崩れしない吸収体を実現しました。2020年度には、この特長を活かした生理用ナプキン『ソフィ SPORTS』を発売しました。また2023年9月には、細くて柔らかい広葉樹パルプの特長を活かし、高密度の吸収体が身体にフィットして動いてもモレにくく、通常タイプと比較して吸収力を約1.2倍に向上させた生理用品『ソフィ シンクロフィット 特に多い昼用 厚型タイプ』を発売しました。

植物由来成分を使用した商品の提供・拡大

当社は、植物由来成分を使用した商品の開発や提供を拡大しています。

P.29 植物由来プラスチックの使用

オーガニック商品の提供・拡大

当社は、土壌や水質への環境負荷を最小限に抑えたオーガニックコットンを配合した商品の展開を拡大しています。

- **【日本】**

日本では、ベビー用紙おむつ『ムーニー 低刺激であんしん』や生理用品『ソフィ はだおもい ORGANIC®』、尿もれケア専用品『ライフリー さわやかパッド オーガニックコットン』などのオーガニックコットンを配合した商品を販売しています。

▶ オーガニックコットンを使った商品数（日本）

年度	商品数
2022	33
2023	53
2024	42

P.140 環境データ>オーガニックコットンを使った商品数（日本）

- **【ベトナム】**

ベトナムの現地法人は、環境に配慮された商品を購入したいという需要の高まりに応え、2024年の世界環境デーに合わせて、オーガニックコットンや無漂白素材を配合した生理用ナプキン『Diana SENSI FOR NATURE』を限定発売しました。

- **【インドネシア】**

インドネシアの現地法人は、2024年の世界環境デーに合わせて、赤ちゃんの肌に触れる表面シートに認証を受けたオーガニックコットンを一部配合した『MamyPoko Royal Soft Bio』を限定発売しました。

森林保全活動

●【日本】「2024年度『We Love Forestの森』植樹祭」に参加

ユニ・チャーム株式会社は2022年度からSGEC／PEFCジャパンが主催する植樹祭に参画しています。2024年度は10月に開催された「2024年度『We Love Forestの森』植樹祭」へ参加し、マッチングファンド*を通じて少花粉スギの苗木300本を寄付しました。

* 「被災地支援」を目的に創設。社員が着用するオリジナルのポロシャツやジャンパー、グッズなどを社内で販売。社員の購入した代金相当額と同額を寄付する制度。

P.107 【被災地支援】社員参加型のマッチングファンド

●【インド】植樹活動

インドの現地法人では、世界環境デーに合わせて、社員がニムラナ工場やスリシティ工場などで植樹活動を行いました。

●【ブラジル】社員の森林保全に対する意識向上を目指して

ブラジルの現地法人では、2024年6月、社員の森林保全に対する意識を向上させるために、多肉植物の苗木を400本配布しました。

「緑の募金」で林野庁から感謝状

ユニ・チャーム株式会社は、取引先小売業22社と連携し、世界環境デーに合わせて展開したキャンペーンの一環で行った「緑の募金」への寄付活動が評価され、林野庁から感謝状をいただきました。「緑の募金」は、公益社団法人国土緑化推進機構（農林水産省・林野庁所管）が運営しており、集まった寄付金は、植樹等の森林保全活動や次世代を担う子どもたちへの自然環境教育等に活用されます。

●【タイ】マングローブ植樹

タイの現地法人は、2024年8月、自然環境保護活動の一環として、チャチューンサオ県のコミュニティやパートナー企業らとともに「マングローブ植樹プロジェクト」を開催しました。当日は、社員や取引先、代理店の方々、政府職員など1,196名が参加し、約1,000本のマングローブの苗木を植樹しました。

●【マレーシア】マングローブの植樹

マレーシアの現地法人は、2024年9月、マレーシア天然資源・環境・気候変動省が立ち上げた「Greening Malaysia - Our Trees, Our Life」キャンペーンを支援するため、NGO団体と協力してマングローブの植樹を行い、約60名の社員が参加しました。

●【台湾-大中華圏】苗木の寄付

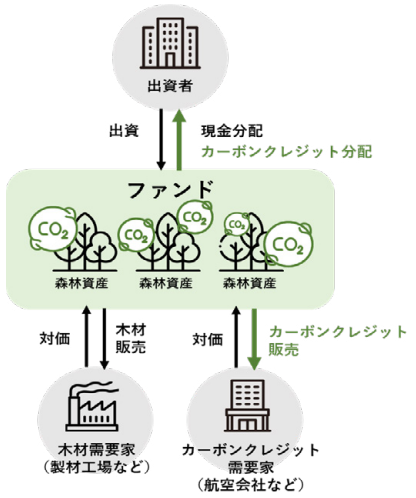
台湾–大中華圏の現地法人は、2024年4月から6月を対象期間としてウォーキング活動を実施し、125名の社員が参加しました。今回は参加者の歩数・歩行距離に応じて、絶滅危惧種の鳥類が生息する高雄県に苗木を寄付する取り組みが行われ、全参加者の累計歩数が1億歩を達成したため、苗木8本を寄付しました。

P.93 【台湾–大中華圏】ウォーキング活動

森林ファンド「Eastwood Climate Smart Forestry Fund I」に参画

当社は、住友林業グループが2023年6月に組成、運用を開始した森林ファンド「Eastwood Climate Smart Forestry Fund I」に参画しています。このファンドは、当社を含む日本企業10社からの出資金によって、木材生産が目的である従来の森林経営に加えて気候変動対策にも資する持続的な森林経営を行うものです。出資企業には、森林の適切な管理を通じて、木材販売等から得られる利益や、森林から生み出されるカーボンクレジットが還元され、社会全体のカーボンオフセットへの貢献を目指します。

出資後、「Eastwood Climate Smart Forestry Fund I」はアメリカ、カナダ、パナマ、コスタリカなど4ヵ国に森林を取得しました。異なる気候帯の森林を取得し、木材生産・カーボンクレジット創出の両面でリスク分散を実現しながら、社会全体のカーボンオフセットへの貢献を目指します。



【タイ】森林カーボンクレジットプロジェクトに参画

タイの現地法人は、2023年8月からMae Fah Luang財団が主催する「持続可能な開発のための森林カーボンクレジットプロジェクト」に参画しています。このプロジェクトでは、コミュニティが二酸化炭素吸収源としての森林を管理することを支援し、持続可能な農業を推進しています。また、コミュニティによる森林からの水源の利用、農作業や農業、飲用水源の開発にも協力しており、経済と環境、双方の持続可能性に貢献しています。2024年度は、このプロジェクトにより火災の発生率が約8.4%減少し、PM2.5の低減にもつながりました。

パーム油

持続可能なパーム油の調達

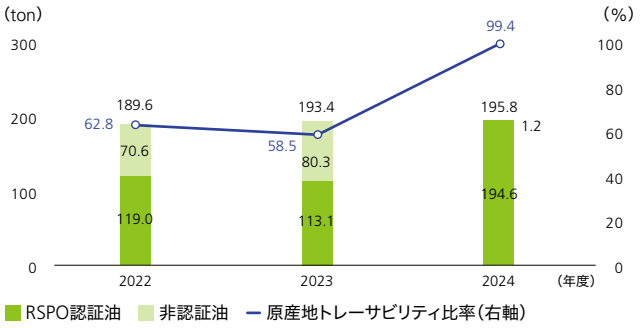
当社は、2017年度にRSPOへ加盟し、持続可能な認証パーム油の調達を進めています。

日本で生産しているペットフードで使用しているパーム油については、不二製油グループのRSPO認証油を使用しており、不二製油グループではパーム油の供給元の搾油工場・農園までのトレーサビリティの向上を進めています。

2024年度のマスバランス方式*1によるRSPO認証油の調達量（日本）は194.6tonで、原産地トレーサビリティ比率は99.4%でした。今後も品質・調達ルートを確認しながら持続可能な調達活動を続け、当社が購入するすべてのパーム油をRSPO認証油に切り替えていきます。

*1 認証農園で生産された認証油が流通過程で他の非認証油と混合される認証モデル。物理的には非認証油を含んでいますが、購入した認証農園と認証油の数量は保証されます。

▶ パーム油の調達量（日本）と原産地トレーサビリティ比率



web 当社の進捗状況は下記で確認できます。
https://rspo.org/

web 不二製油株式会社>パーム油のサステナブル調達
https://www.fujioil.co.jp/sustainability/palm_oil/

サーキュラーエコノミーの取り組み

使用済み紙パンツのリサイクル推進

当社は、2015年度より使用済み紙パンツリサイクルの実証実験を続けています。2022年6月に鹿児島県内の一部の介護施設で、リサイクル原材料を吸収部材の一部に活用した紙パンツの使用が開始され、使用済み紙パンツの水平リサイクルが実現しました。当社のリサイクルシステムは、回収した使用済み紙パンツを洗浄・分離し、取り出したパルプに当社独自のオゾン処理を施すことで、排泄物に含まれる菌を殺菌し、衛生面・安全面・使用面において未使用の原材料と同等に再生するシステムです。2024年度末時点で使用済み紙パンツのリサイクル設備を、鹿児島県志布志市と大崎町の2つの自治体で運用しています。

また、志布志市では、2023年4月より『手ぶら登園®*2』を利用する保育施設で使用済み紙おむつの回収を開始しました。2024年8月には、これらの保育施設に、使用済み紙パンツからリサイクルした原材料を使用した保育施設専用のベビー用紙おむつ『マミーポコパンツRefF』の提供を開始したことで使用・回収・リサイクルの輪がつながり、志布志市においてサーキュラーエコノミーが実現しました。

*2 保育施設向けのベビー用紙おむつ・おしりふき定額サービス。

P.23 循環型社会の実現に向けたRefFプロジェクト